

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
2019 年度事業報告

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2019 年度の経過

2019 年度の事業として、第 34 回リハ工学カンファレンスを 8 月 21 日から 23 日まで札幌市の北海道科学大学で開催し、230 名の参加者と 99 演題の発表があり、公開講座等を実施しました。福祉機器コンテスト 2019 は 7 月に一次選考会、8 月に二次選考会を開催し、機器部門 3 件、学生部門 3 件の受賞作を決定しました。受賞作は 9 月 25 日から 27 日に東京ビッグサイトで開催された第 46 回国際福祉機器展 (H. C. R. 2019) において本協会のブースに展示し、同会場で表彰式が行われ、多くの関係者の注目を集めました。受賞作はバリアフリー2020 (大阪市) においても展示予定でしたが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大のため、同展は中止となってしまいました。協会誌は Vol. 34 No. 3 から Vol. 35 No. 2 まで 4 回発行し、Vol. 35 No. 1 では福祉機器コンテストの報告書も合わせて会員に発送しました。国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が運営する電子ジャーナル公開プラットフォームである J-STAGE における電子公開も新たに開始しました。

分科会・専門委員会関連事業として、SIG 関連では全 10 SIG の法人内 SIG 化の検討を進め、2021 年度からの全 10 SIG の法人内 SIG への移行を達成するためのロードマップ作成が行われました。地域支部体制もさらに整備を進めました。災害対策委員会では、復興支援活動の一環として第 3 回災害対策セミナーを八王子市いちょう祭りの一部として開催しました。また、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会 (JRAT) 各種委員会に委員を派遣しました。JRAT は、4 月より一般社団法人となり、日本災害リハビリテーション支援協会 (略称は JRAT のまま) と名称変更されましたが、当協会も法人 JRAT の設立時加盟団体の一員になりました。広報活動としては協会リーフレットの更新を行い、H. C. R. 2019 においてブースを設け、本協会の活動を PR すると共に、主催者の主催するイベントに協力いたしました。また、協会ホームページの充実も図ってきました。

国際連携推進委員会では、CREATe Asia (Coalition on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology, Asia) や IAATO (International Alliance of Assistive Technology Organization) なども国際会議に委員が参加し、国際連携を勧めました。IAATO は、8 月の会議で GAATO (Global Alliance of Assistive Technology Organization) と改称され、一定の条件を満たす国・地域の支援技術組織が加盟できるような一層の国際化を目指す組織となりました。2020 年 6 月には国際法人となり、当協会も設立時の加盟団体となるとともに、引き続き中央委員会 (Steering Committee) のメンバーとして、法人化や国際連携活動の推進に協力しました。

以上のように今年度も多方面にわたる事業を実施して参りましたが、2019 年度中から準備を進めてきた 2020 年度事業が COVID-19 拡大の影響で、中止を余儀なくされ、また、理事会開催に支障をきたす事態となり、Web 会議システムによる理事会開催などで対応しました。

2019 年度より協会会費を値上げさせて頂きました。おかげさまで会費収入は増加し、単年度赤字は解消されました。しかし、ここ数年の慢性的な会員数低下などにより、楽観視はできない状況です。今後も本協会を継続及び発展させるため、引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

会長 桂 律也

1. 社員・会員

1-1. 法人社員・会員

2019年7月1日 正会員 651名（うち社員（代議員）83名）、学生会員 9名、
賛助会員数 19社（59口）

2020年6月30日 正会員 650名（うち社員（代議員）77名）、学生会員 10名、
賛助会員数 18社（56口）

2. 事業

本協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2019年度の活動を報告する。

2-1. リハ工学カンファレンス関連（担当理事：剣持悟・鈴木太）

1) 第34回リハ工学カンファレンス開催

第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろを開催した。

- ・会期：2019年8月21日（水）～23日（金）
- ・会場：北海道科学大学（北海道札幌市）
- ・大会テーマ：リハ工学と看護・介護
- ・大会長：桂 律也氏（三草会クラーク病院リハビリテーションセンター長）
- ・実行委員長：早川康之氏（北海道科学大学保健医療学部義肢装具学科教授）
- ・参加者：230名（うち有料参加者213名）
- ・演題数：99（一般口演76、学生口演3、当事者4、インタラクティブ15、学生インタラクティブ1）
- ・市民公開講座：1、大会長特別企画：5、学生特別企画：3、支部セッション：6

2) 第35回リハ工学カンファレンス準備

- ・会期：2020年10月24日（土）～26日（月）を予定していたが、2021年秋に延期
- ・会場：西日本総合展示場, AIM3F 会議室
- ・大会長：繁成 剛氏（長野大学社会福祉学部社会福祉学科教授）
- ・実行委員長：中村詩子氏（北九州市立総合療育センター）
- ・実行委員会の打ち合わせ（主にWeb会議システムによる）に参加（8月5日、2月5日、2月25日、4月2日、5月15日）
- ・大会テーマは「ライフスタイルの新陳代謝－多様性と持続可能性を意識して－」となった
- ・COVID-19拡大の影響で演題募集を延期し、その後、理事会の決定を受けて、延期を決定
- ・延期の日程は2021年9月24日（金）から26日（日）で検討中。タイムテーブルも再検討
- ・特別講演講師の熊谷晋一郎氏は延期日程での講演を承諾済み
- ・交流を伴う催しはそのまま開催することが難しいので、代替案を検討していく

3) 第36回リハ工学カンファレンス準備

- ・中部支部での開催を検討していたが、難航しており、中国・四国支部にも打診を行っていた
- ・しかしながら第35回大会が延期となり、一旦保留としている

4) 今後のカンファレンスのあり方を検討する

- ・地方におけるカンファレンスのあり方について、ヒアリングを行った
- ・理事会前後の調整会議の場で議論を進めている
- ・COVID-19拡大の影響により、今まで通りの開催方式が通用しなくなってきており、オンライン参加、オンデマンド配信、遠隔地からの発表機会の確保などと合わせて検討中

2-2. 福祉機器コンテスト関連 (担当理事：村田知之)

1) 福祉機器コンテスト 2019

- ・第一次選考会 2019年7月6日(土) 応募19作品の書類・ビデオ審査
於：横浜市スポーツ医科学センター
- ・第二次選考会の開催 2019年8月22日(木)
機器開発部門：プレゼンテーション審査、学生部門：書類・ビデオ審査
於：第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ会場内(北海道科学大学)
- ・発表：H.C.R.2019協会ブース内(2019年9月25日～27日)
- ・表彰：2019年9月27日14:00～15:30 於：東京ビッグサイト 会議棟
- ・展示、広報：第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ 2019年8月21日(水)～23日(金)
(一次選考会通過作品の実物展示)
H.C.R.2019(東京)2019年9月25日(水)～27日(金)

2) 福祉機器コンテスト 2020

- ・福祉機器コンテスト2020事務局の設置(2020年3月1日～)
- ・選考委員会の設置(2019年4月1日～)
- ・福祉機器コンテスト2020中止の決定(2020年4月21日)
※COVID-19拡大の影響によるもの

2-3. 協会誌関連 (担当理事：石濱裕規)

1) 編集委員会の開催

- ・第2回編集委員会(2019年7月7日、新横浜にて開催、参加11名うちWeb会議参加2名)。新規編集委員2名追認、編集委員長の継続承認(第54回理事会次第)を報告
- ・第3回編集委員会・第3回投稿規定検討委員会(2019年10月13日予定)は台風のため延期とし、Chatwork上電磁的手段により開催した(2019年12月14日)
- ・第4回編集委員会・第3回投稿規定検討委員会を開催した(新横浜 2020年1月11～12日)
- ・2020年度第1回編集委員会を電磁的手段により開催した(2020年4月11日)
- ・新規編集委員公募を協会HP、会員メーリングリスト配信、協会誌上にて進め、第62回理事会に新規編集委員4名の追認、および編集委員体制の変更を起案し、承認された

2) 協会誌発行

以下を発刊した。

- ・vol.34 No.3 2019年8月 特集「障害者スポーツの未来と挑戦し続けるアスリートを取り巻く環境」
- ・vol.34 No.4 2019年11月 特集「サイエンスを民主化せよ -インクルーシブデザインラボをめざして-」
- ・vol.35 No.1 2020年2月 特集「自分らしく暮らしたい」を発刊した(福祉機器コンテスト2019結果報告書合本)
- ・vol.35 No.2 2020年5月 特集「ものづくり新時代 -3Dプリンタの現在と未来-」

以下の協会誌を発行予定につき準備を進めた。

- ・vol.35 No.3 2020年8月 特集「新型コロナウイルスへの対応(仮)」
- ・Vol.35 No.3に関して、特集記事は掲載しない(特集担当を設けない)掲載内容は「協会からのお知らせ」「投稿論文」、また可能であれば、編集委員会作成による記事の掲載とし編集委員会から、外部への執筆依頼を行わない形での発行とした

- ・ vol. 35 No. 4 2020年11月 特集「障害と働き方(仮)」
- ・ vol. 36 No. 1 2021年2月 特集「新しいリハビリテーション領域と機器」

3) 投稿論文 (査読依頼)

- ・ 2019年度の新規投稿4件のうち掲載予定1件、再査読2件、掲載不可1件
- ・ これまでの投稿規定検討委員会での検討から、改定案の準備、編集委員会内アンケートを電磁的に進めた
- ・ 第62回理事会にて、査読委員会の新設を再起案し、承認された

4) 協会誌の段階的電子化

- ・ 2019年度は計8号(Vol. 32 No. 3～Vol. 34 No. 2)を電子公開した
- ・ 協会誌号にて、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナル公開プラットフォームであるJ-STAGEにおける電子公開をVol. 34 No. 4にて会員に案内した
- ・ 第62回理事会にて、J-STAGEからの「コロナ感染対応支援策につきまして(要請)」への対応、ならびに協会誌のアクセシビリティ向上のため、協会誌J-STAGE公開時期・形態の見直しを起案した。理事会審議の結果、特集・連載等は認証制、論文等投稿記事はオープンアクセス化し、共に最新号より登載することが承認された
- ・ 協会誌Vol. 34 No. 3～Vol. 35 No. 2のJ-STAGE上公開準備、および直近号の報告記事協会HP更新準備を進めた(2020年7月1日付更新)

5) その他

- ・ Vol. 35 No. 2 執筆者より、勤務先(大学)の住所への郵便物受け取りができない現状を踏まえて、協会誌記事著者連絡先フォームの見直し、およびデジタルシフトを求めのご意見があった
- ・ Vol. 34 No. 4 ご寄稿のCooper氏よりの“it would be wonderful to have widely distributed.”というご意見があり、協会誌発刊・公開形態は継続検討中である

2-4. 分科会・専門委員会(担当理事: 谷口公友・植田瑞昌)

1) SIG活動支援(分科会(SIG)担当理事: 谷口公友)

- ・ 現在ある10 SIGの活動を支援するために、協会誌やホームページへの講習会等の情報掲載と書式の整備、各種展示会における案内チラシの配布を行った
- ・ カンファレンス時にSIG代表者会議を開き、情報共有の場を設けた
- ・ 当法人が企画・参画・運営する事業(講習会やコンテスト、協会誌の査読、リハ工学カンファレンスなど)に際してSIGからの協力を得て実施した
- ・ 協会誌へのSIGイベント告知を掲載予定であったが、COVID-19拡大の影響により、イベント自体が中止となり、掲載に至らなかった
- ・ 2019年度のSIG代表者会議を受けて、全10 SIGが法人内SIGとなるように各種条件の整理を行い、法人外SIGの法人内SIGへの移行を順次進めていく予定であったが、COVID-19拡大等の影響から、2020年7月からの法人内SIG化は実現できなかった。今後、法人内SIG化を1年延長し、2021年7月からの法人内SIG化の準備を進めていく説明を、Web会議システムで開催したSIG代表者会議にて報告した

2) 支部への活動支援(分科会(支部)・専門委員会担当理事: 植田瑞昌)

- ・ 全国6支部の設置が完了し、各地域での活動を支援すべく協会誌等にて情報発信を行った
- ・ 支部の活動支援を目的に、リハ工学カンファレンス時に支部セッションを開催、全国の各支部会員の情報交換の場を設けた

- ・支部規定を一部改訂し、支部長の任期を設け、委嘱手続きを遂行する準備を行った
- ・円滑な支部活動のための活動費配分に関しては、COVID-19 拡大の影響もあり検討中となった。そのため、支部代表者会議を Web 会議システムで行い、支部活動費の配分に関して各支部の希望と状況の確認を行った
- ・イベント等の中止に伴い今後の活動への支援の検討を行った

3) 災害対策委員会の運営 (分科会(支部)・専門委員会担当理事：植田瑞昌)

- ・2020年6月末をもって4年の任期を終了するため、今後の活動及び事業委員会(常設化)とする必要性について検討を行った
- ・JRATの各種委員会(戦略会議、広報委員会、研修企画委員会)へ委員の派遣を行い、JRAT加盟各団体との協力関係の構築およびJRAT内における当協会の役割の精査を行った。また委員会内でメンバーリングリストにて情報共有を行った
- ・JRAT法人化に伴う、加盟継続の可否について検討を行い、最終的に理事会で加盟継続が決議された
- ・2018年度の協賛企業・団体に対し、2018年度災害対策委員会事業報告書を作成・発送した
- ・2019年度(一社)日本福祉用具・生活支援用具協会(JASPA)災害復興車椅子メンテナンスに協力した

4) 災害対策セミナーの開催 (分科会(支部)・専門委員会担当理事：植田瑞昌)

- ・災害対策委員会の活動の1つとして、第3回災害対策リハ工学セミナーの企画運営を行った
- ・本事業は第40回八王子いちよう祭りの一部として、2019年11月16日～17日にイーアス高尾(八王子市)にて開催した
- ・開催内容として11月16日～17日に災害に対応したグッズ等の展示。11月16日にはセミナー「災害時の福祉機器・生活支援技術を学び合う」(繁成剛氏(東洋大学/当協会顧問))を実施した

2019年度SIG活動報告 期間：2019年7月～2020年6月 ※SIG会員数(協会員数)は2019年6月1日現在

SIG 姿勢保持	https://www.resja.or.jp/posi-sig/	会員数：144名(36名)
代表者：繁成剛(長野大学)	事務局長：児玉真一(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> ・リハ工学協会事業への協力 ・講習会開催：実施完了 日程：2019年9月7日(土)～8日(日) 会場：山西福祉記念会館(大阪) ・第3回災害対策リハ工学セミナーへの参加 日程：2019年11月16日(土)～17日(日) 会場：イーアス高尾(八王子市)強化段ボール製品の展示とワークショップ ・役員会の開催： 日程：2020年1月13日 Web会議(司会：横浜市総合リハビリテーションセンター) ・書籍(小児から高齢者までの姿勢保持・第2版)や資料集PDF版の販売 		
車いすSIG	https://www.resja.or.jp/wc-sig/	会員数：95名(42名)
代表者：沖川悦三(神奈川県総合リハビリテーションセンター)	事務局長：深野栄子	
<ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催：義肢装具SIGとの合同特別講習会 日程：2019年8月24日 会場：北海道科学大学 HITプラザ(札幌市) ・WEBサイト運営、分科会(BOG)活動、大規模災害復興支援、協会事業への協力 他 		
自助具SIG		会員数：9名(9名)
代表者：岡田英志(ヒューマン)	事務局長：岡田英志(ヒューマン)	
<ul style="list-style-type: none"> ・貸し出し用自助具箱の完成(貸出1件 西九州大学) ・Facebookを利用した情報発信 		
乗り物SIG	https://ameblo.jp/sunrise.jp007/	会員数：5名(5名)
代表者：岩崎満男(株式会社ファーストウェルフェア)	事務局長：増子千景(WILD GATE)	
<ul style="list-style-type: none"> ・組織変更について(代表者を岩崎→麩澤孝氏に交代、事務局を増子→片石任氏に交代) 		
SIG 褥そう防止装置	https://www.resja.or.jp/sig-pmps/	会員数：20名(20名)
代表者：新妻淳子(国立リハセンター研究所)	事務局長：河合俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新、褥瘡学会との連携(委員派遣・セミナーの後援) ・COVID-19対応指針作成・遠隔支援 		
コミュニケーションSIG	https://www.resja.or.jp/com-sig/	会員数：67名(20名)
代表者：渡辺崇史(日本福祉大学)	事務局長：上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> ・Comsigメンバーメンバーリングリストの再構築 		

SIG 住まいづくり 代表者：橋本美芽（首都大学東京） ・WEB サイトリニューアル検討	https://www.resja.or.jp/sumai-sig/ 事務局長：鈴木基恵（横浜市総合リハビリテーションセンター）	会員数：107名（60名）
特別支援教育 SIG 代表者：松田靖史（川村義肢株式会社） ・リハ工学協会事業への協力 ・特別支援関連事例の収集	事務局長：高原光恵（鳴門教育大学）	会員数：5名（5名）
移乗機器 SIG 代表者：古田恒輔（神戸学院大学） ・役員会の開催	http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html 事務局長：青木久美子（宇部記念病院訪問リハビリテーション）	会員数：138名（23名）
義肢装具 SIG 代表者：笹川友彦（熊本総合医療リハビリテーション学院 義肢装具学科） ・講習会開催：車いすSIG との合同特別講習会 日程：2019年8月24日 会場：北海道科学大学 HIT プラザ（札幌市） ・WEB サイト運営	https://www.resja.or.jp/po-sig/ 事務局長：砂野義信	会員数：115名（32名）

注：）各支部活動報告は別紙参照

2-5. 企画推進事業（事業統括担当理事：中村俊哉）

協会の広報活動及び会員獲得に向けたPR 活動、公益活動のために以下の展示会出展及び出展社セミナー等の開催を行った。

1) 広報活動強化

- ・H.C.R. 2019（於：東京ビッグサイト（東京））にてブース出展を行った
- ・バリアフリー2020（於：インテックス大阪（大阪））の出展準備を行ったが、COVID-19 拡大の影響により展示会が中止となった

2) セミナー開催

- ・H.C.R. 2019 において、出展者プレゼンテーション「電動車いすでどこでも行こう！～ローカル線を乗り鉄旅～」(講師：麩澤孝氏、9月25日(水))を企画・開催した
- ・バリアフリー2020 において、バリアフリー・ワークショップを企画中であったが、COVID-19 拡大の影響により中止となった
- ・第9回合同シンポジウムを計画中であったが、COVID-19 拡大の影響により中止した

3) 災害対策委員会に関する講習会の開催

- ・第3回災害対策リハ工学セミナー（2019年11月16日(土)～17日(日)）於：イーアス高尾（八王子市）を第40回八王子いちよう祭り内において、災害対策委員会、関東・甲信越支部の協力の下企画、開催した

4) 情報保障の推進

リハ工学カンファレンス in さっぽろ、その他シンポジウム等の事業での実施はなかったが、今後に向けて方法等の検討を進めていく。

2-6. 国際関連の事業（担当理事：森田千晶）

1) 国際関連団体との相互協定に基づく交流

- ・AAATE 2019 in Bologna, Italy.（2019年8月27日～30日）General Assembly of IAATO - initial meeting 2 に国際連携推進委員の井上剛伸氏（国立障害者リハビリテーションセンター）、CREATE Asia 会議に国際連携推進委員の相良二郎氏（神戸芸術工科大学）が参加
- ・GReAT Consultation 2019（2019年8月22日～23日）ジュネーブで開催された会議に井上委員が出席
- ・第17回国際義肢装具協会世界大会（神戸）のWHO シンポジウム-Assistive Technologies for Ageing Society-（2019年10月6日）に井上委員をシンポジストとして推薦
- ・ISPO2019 の協会誌への学会報告を会員の河合俊宏氏に原稿依頼し掲載

- ・ GAATO ボードミーティング（オンライン）（2019年10月22日）井上委員より経過報告
 - ・ ボローニャ宣言を翻訳し、「日本語最終版」として、協会HPおよび協会誌35-1号に掲載した
 - ・ GAATO 法人化に伴い、RESJA の参加継続と、それに伴う法人登録料金（分担拠出金）1,000 スイスフランの拠出および年会費500 スイスフランについて検討し、理事会で参加継続が決議された
 - ・ 6月24日 GAATO 法人設立総会がオンラインで行われ、井上委員が代表として参加した
- 2) 国際連携推進委員会の委員再任
- ・ 井上氏、井村氏、相良氏、繁成氏に委員依頼し承諾を得た
- 3) 協会HPの広報
- ・ ボローニャ宣言和訳掲載予定
 - ・ 北米リハビリテーション工学協会（RESNA）が公開した「車椅子・支援機器ユーザーのみなさまへ COVID19 の予防」を和訳し、協会HP、Facebook で公開した

3. 総務

3-1. 規則・選挙（担当理事：水澤二郎）

- 1) 2019年度役員候補者選挙
- ・ 2019年度役員候補者選挙を行った
 - ・ 次回の代議員選挙ならびに役員候補者選挙へ向けて「電子投票システム」導入の具体的検討を推し進め、「代議員選出規則」の改定準備を進めた
- 2) 規程の整備
- ・ 協会事業活動の発展、拡大に伴う事務局業務の負担増の懸念に対し、事務局運営体制の変更を目的とし、「事務局設置規則」の改定を行った

3-2. 財務（担当理事：岡野善記）

- 1) 法人会計の管理
- ・ 2018年度決算報告（案）の作成
 - ・ 2019年度決算報告の準備
 - ・ 2020年度予算（案）の作成
 - ・ 四半期決算の実施
- 2) 分科会・支部の連結決算の準備
- ・ 現状の把握
 - ・ 会計システムの構築

3-3. 総会・理事会等会議開催（担当理事：江原喜人）

- 1) 2019年度定時社員総会を開催
- ・ 2019年8月22日12:20～13:20、北海道科学大学4階E405教室（第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ 第4会場）において定時社員総会を開催した
- 2) 2019年度第1回（通算第55回）～第9回（通算第63回）理事会の開催
- ・ 2019年7月21日、8月23日、10月14日、12月8日に理事会を開催した。COVID-19拡大の影響により2020年3月以降、対面による理事会開催を中止したことに伴い、2020年3月および4月に電磁的手段による理事会、2020年5月22日および6月7日、7月6日にWeb会議システムによる理事会を開催した

3-4. 広報・渉外（担当理事：杉本昌子・鈴木太）

- 1) WEB 管理委員会活動
 - ・HP 更新、FAQ 作成
 - ・会員メーリングリスト配信 14 件
 - ・Free メーリングリスト配信 57 件
 - ・Facebook 投稿 10 件
 - ・Google アカウント使用実績なし
- 2) 協会リーフレット更新
 - ・第2期に実施
- 3) オンラインストレージの利用
 - ・Drivee 導入後、サービス終了のため Xdrive に切り替え

4. 事務局（事務局統括理事：水澤二郎）

- 1) 事務局運営
 - ・法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進めた
- 2) 展示会出展における広報活動を行った
- 3) Chatwork を利用して理事会運営の効率化を図った

5. 後援・協賛事業

2019 年度は以下の事業の後援・協賛を行った。

No.		団体名	開催日程	内容
1	協賛	バイオメカニズム学会	2019年7月5日～7日	第26回バイオメカニズム・シンポジウム
2	後援	福祉用具プランナー研究ネットワーク	2019年7月21日	プラネット第5回研究大会
3	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2019年7月26日～27日	第18回ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド
4	後援	一般社団法人日本福祉のまちづくり学会	2019年8月8日～9日	日本福祉のまちづくり学会 第22回全国大会
5	後援	SENSの会福岡支部会北九州地区継続研究会	2019年8月10日	第11回子どもが「わかる」「できる」教材作成ワークショップ
6	後援	特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター	2019年9月～2020年3月	第7回ウェルフェアデザインコンテスト
7	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2019年9月2日～5日	ヒューマンインタフェースシンポジウム2019
8	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2019年9月6日～8日	第53回日本作業療法学会
9	協賛	一般社団法人日本機械学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人	2019年9月12日～14日	LIFE2019

		日本生活支援工学会		
10	後援	一般社団法人ナンフェス	2019年9月23日	ウォーク&ランフェスタ2019
11	後援	国際義肢装具協会 日本支部	2019年10月5日～8日	第17回国際義肢装具協会世界大会 (ISPO2019神戸世界大会)
12	後援	日本身体障害者補助犬学会	2019年10月5日～6日	日本身体障害者補助犬学会第12回 学術大会
13	後援	NPO法人ケアリフォームシステム研究会	2019年10月11日	ケアリフォームシステム研究会 全国大会in千葉
14	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2019年11月14日～16日	P. P. C. 2019第21回西日本国際福祉 機器展
15	後援	特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会	2019年11月23日～24日	第15回日本シーティング・シンポジ ウム
16	協賛	バイオメカニズム学会	2019年11月30日～12月1日	第40回バイオメカニズム学術講演 会
17	後援	介助犬のひろば実行委員会	2019年12月1日～3日	介助犬のひろばin北河内2019
18	協賛	感覚代行研究会	2019年12月2日～3日	第45回 (2019年) 感覚代行シンポジ ウム
19	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2019年12月12日～14日	第20回SICEシステムインテグレー ション部門講演会
20	協力	東京大学先端科学技術研究センター	2020年1月9日～10日	インクルーシブ・デザイン・ラボ プロ ジェクト キックオフシンポジウ ム
21	後援	特定非営利活動法人 バイオフィリア リハビリテーション学会	2020年2月10日～11日	第23回バイオフィリアリハビリテ ーション学会大会
22	後援	日本チェアスキー協会	2020年2月21日～23日	障害者スキー普及講習会 第41回 日本チェアスキー大会
23	協力	経済産業省製造産業局	2020年3月2日～8月31日	第9回ロボット大賞

下線は新規事業

【別紙】

◆支部の2019年度活動報告◆

◇東日本支部

1. 事業概要

東日本支部は、組織作りができないまま経過しており、協会誌等でお手伝いいただける会員を呼びかけてはいるものの、現状では支部役員も決まっていない状態である。さっぽろカンファレンス時の支部ミーティングに期待したが、北海道地区の3名しか参加されず、具体的な話が出来なかった。

2. 事業内容

第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろに東日本支部として開催協力を行った。

◇関東・甲信越支部

1. 事業概要

関東・甲信越支部では、H.C.R.2019や第40回八王子いちよう祭りにおいて、リハ工学協会ブースの運営と付随するセミナー等の運営を補助、そしてリハ工学カンファレンスにおける支部セッションによる関東・甲信越支部の活動報告等を通じて、リハビリテーション工学に関わる研究や情報の普及・啓発を図った。

2. 主要事業

1) 協会事業への協力

- ①2019年8月22日(木)、第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろにおける支部セッションの運営
- ②2019年9月25日(水)～27日(金)、H.C.R.2019のリハ工学協会ブース運営補助および出展社セミナーの運営補助
- ③2019年11月16日(土)～17日(日)第40回八王子いちよう祭りのリハ工学協会ブースの運営補助および第3回災害対策リハ工学セミナーの運営補助

◇中部支部

1. 事業概要

中部支部は、支部圏域が東海地区と北陸地区へと広域であることから、今後の活動の方法やミーティングの持ち方について検討を行った。

2. 主要事業

今年度については特に実施しなかった。

3. その他

1) 支部ミーティングの開催

2019年8月22日(木)、第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろにて行った。地理的に広域であることから、全体で集まるのは大変なので、東海、北陸の各ブロックで活動の機会を1回は開催したらどうか(支部としては2回/年)。企画例として、福祉用具開発メーカー、福祉用具の評価・普及に関する施設や研究期間(大学も含む)等の見学および意見交換会の実施などについて、検討した。

◇関西支部

1. 事業概要

全国頸髄損傷者連絡会とリハ工学協会が協力し実施している、頸髄損傷者の実態調査の企画およびアンケートへの参画を行った。その中間報告会を2020年度関西支部協力の下実施予定であったが、COVID-19拡大の影響により中止となった。同様にバリアフリー2020 リハ工学協会のブース運営協力や支部役員会についても中止となった。

2・主要事業

1) 支部セミナー等の開催

頸損実態調査の中間報告会への協力を予定していたが、COVID-19の影響により中止となった。

2) バリアフリー2020 ブース運営および出展社セミナーの開催

COVID-19拡大の影響により展示会が中止となった。

◇中国・四国支部

1. 事業概要

支部圏域が広く、ミーティングを持つことそのものが厳しく、LINEなどを用いて種々、事業の打ち合わせを図ってきた。4月に合同シンポジウムを実施したことで、そのテーマを中四国で普及をしていきたいと考え、主要事業とした。

2. 主要事業

1) こうち福祉機器展におけるシンポジウムの実施

2019年7月13日(土)、合同シンポジウムを実施した。機器展での講師を務める、滋賀医科大学埴田准教授、日本ノーリフト協会代表保田淳子氏にもゲスト参加をしていただき、必要性をさらに実感した。

2) 第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろに参画

テーマ：大会長特別企画 リハ工学と看護・介護 持ち上げない介護

3. その他：支部ミーティングの開催

2019年8月22日(木)、第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろにて3役での会議を行い、今後の支部活動についての意見交換を行った。この取り組みを中国・四国支部の主要事業と位置づけ活動を実施することを確定した。

◇九州支部

1. 事業概要

九州支部では、2019年度支部オフラインミーティングを開催し、リハビリテーション工学に関わる研究や情報の普及・啓発を図った。

2. 主要事業

1) オフラインミーティングの開催

第21回西日本国際福祉機器展でのオフラインミーティング

開催日：2019年11月14日(木) 10:00～17:00

場所：西日本総合展示場 新館(北九州市小倉北区浅野3-8-1)

※RESJAの旗を掲げ、各ブースを巡回して出展社スタッフや来場者と共に展示品についてのディスカッションや、福祉用具に関わる話題提供、情報交換等を行った

3. その他

1) 支部役員会の開催

役員会は適宜、メールリストを活用して電磁的に行った。